

岐 蘇 林 友



學 術

落葉松の林業上に於ける價值

北村 正夫

私は去る八月の七旬に當山林學校に赴任したもので木曾林友紙上では今回が初対面である何か面白い且つ有益なことを余程苦心をして見たが元來が思想の乏き上に赴任早々の何となく心忙しく益々思はしい考へが出てこないから此度は先日一寸縣下の一部を巡回して視察した本題に對する所見の大要を述べて御免を蒙りたいと考へる

尤も落葉松の人造林は信州の名物であるから之に就ては諸君の方が僕よりも遙に先輩である其先輩に向て信州の地を踏んだばかりの僕が所見を述べるとは甚だ借越の沙汰であるが僕とても敢て釋迦に向て説法を爲すが如き考へではない唯數ヶ所の造林地を視察して得た事實を綜合した所謂所見を述べて誤た觀察については諸君の教を乞いたい希望である然し不潔な話してはあが便

所の臭氣は戸を開た啞嗟の場合に最も強く感ずるものであるし又人も初対面のが却て確實に其性癖を看破することが出来る云ふことであるから初めて信州の土地を踏み落葉松の人工造林に初対面をした僕が案外其價值の一部を看破し得た点があるやも計られん若し多少にても御參考となる事があるつたならば夫れこゝ望外の仕合である

さて本問題に就て其林業上に於ける價值を論ずるには順序として落葉松の郷土適地林業上の性質等を先に述べて置く必要があるが此等は既に御案内のことであらうと考へるから總て者畧して直ちに林業上の得失を列挙して最後に其價值に對する斷定を與へることに仕やう

一、落葉松が一般の樹種に比して優れて居る主なる点は次の五項である

- 一、落葉松は幼時の成長甚だ迅速にして新植後速力に鬱閉す
 - 二、潤葉樹類の内には桐、神樹、にせあかしや杯の様な幼時成長の迅速な種類もあるが針葉樹類の内では落葉松以上のものは稀れであらうと思ふ、夫れで原野の如き雜草の多い所でも新植後一回
 - 三、瘠地の造林と云へば赤松か黒松若しくはにせあかしや、はげしげりを連想せられるが今回の視察によると赤松さへ充分に生育することの出來ぬ瘠地で意外の好成長を爲せる所を見た其外赤松と混植してあるものを見るに何れも落葉松の方が好成長をして居る
 - 四、落葉松は甚だ生着し易し
- 或る所で開たのに落葉松は態々植へなくとも根に土さへ掛けて置けば枯れる

明治四十四年九月二十三日印刷
 明治四十四年九月二十五日發行
 編纂兼發行人 安井正夫
 長野縣西筑摩郡福嶋町四〇四番地
 印刷者 兎澤忠雄
 長野縣松本市本町百八拾四番地
 印刷所 交文社
 全縣全市全香地
 發行所 蘆澤書店
 長野縣西筑摩郡福嶋町二八九番地

○本誌目次
 ○學術、落葉松の林業上に於ける價值、人造絹絲業、故郷の森林狀態、佐渡の森林林業年中行事十月之部
 ○拔萃、シヤム國チヤム材
 ○文苑、盆踊に就て、故山に歸る記、鹽防の初夏、佛都便り
 ○彙報、學校通信、觀月會、會員通信、會費領收報告、會員移動

心配はないと云ふて居る現に南佐久郡の大澤村では一鐵植と云つて鐵を一回土中に打ち込めて其穴に根の部を挿し入れ軽く踏み付けて置く丈で一人一日に六百本以上の植付をなすことが出来る、夫れで枯損は極稀であること云ふことである少々極端な話であるが兎に角枯損の少い樹種であることは確である。

五、樹幹長く通直完満にして甚だ美なり。落葉松は成長が速いから中年生以上は成長が盛んであるから中年生以上はなれば下枝は落ち真直の長い幹となる實に立派に見える。

以上の五項を納めて云へば落葉松は造林するに至極簡便で手入れを要することも少く又生長も甚だ迅速で早く立派な森林を仕立てることが出来る誠結構な樹種である、然るに一方其缺點を考へて見るに之れ亦甚だ大なる缺點を持て居る今其主なるものを擧げて見るに次の三項ある。

一、永く鬱閉を保つ能はず故に落葉松の純林は保続的作業をなすに適せず。

前に述べた様に幼時の成長は頗る速かすに於て下枝が枯れ落ち又枝が一般に細く何となく力がなくて最も能く鬱閉する筈の中年生頃となれば最早樹冠は著しく疎となつて林内には雜草の類が發生し林地は著しく乾燥する現に小縣郡の殿城村々有林では二十年前後の林で既に甚だしく鬱閉が破れて其樹下にニセアカシヤの如き陽樹が生育して居る、然し小縣郡の和田峠附近で見ると落葉松林は二十年前後で樹幹も枝も丈夫に成長し鬱閉も密であつた、して見

れば地味氣候が極適して居る所では比較的鬱閉を保つことが出来る様にも思はれるが一般には赤松よりも強き陽樹であつて其純林は永く鬱閉を保つことは出来ない様に思はれる。

二、病虫害及風害に侵され易し。

先年淺間山麓落葉松林に大害虫が發生して大變な損害を受けた事は今尙ほ僕の耳底に残るが此度の視察に於て殿城村々有林で丁度本年大害虫を受けたと云ふ慘たる現場を見た杉がコガネムシの害を受けたのは度々見たこともあるが斯く迄甚だしき被害を受けたのは未だ見たことがない、全体殆んど枯色を呈し部分によりては全く青葉残さな所もあるには全く驚かざるを得なかつた、而も此村有林では二十年此方此處で前回は更に甚だしき害を受けたと云ふことである又大澤村の村有林でも先年大害虫を受けて一時は全林枯色を呈したことがあつたと云ひ其外に於ても稍々廣い落葉松の純林があれば必ず大害虫を受けたと云ふことを聞く落葉松の純林と虫害とは常に附物の様である又外國の話も聞くに獨逸國では昔し落葉松の造林が非常に流行して一時盛んに造林をせられたが其純林が増すに伴ひ禽獸虫類等の被害が續發して遂に其純林は滅亡に歸し唯混交としたもの丈が健全に殘つたと云ふことである又落葉松は其性質癒癒力が極弱い樹木であることは先年白澤林學博士の研究せられた所であるが、僅かの傷を受けると漸次内部へ腐り込んで大に材質を損じ時としては遂に枯れることさへあると云ふことである、現今の如く地味や

氣候の適否も考へずに廣大な純林を造り其保護手入れにも注意せぬ様では將來恐るべき結果を來す様な事がありはせぬかと思はれる。

三、材質不良にして一般建築用材に適せず。

樹幹の形は至て立派であるが其木材の工藝的性質は誠に悪しく乾濕に逢へば甚だしく伸縮反張を生ずるから器具類は勿論建築材を極一部分の外は用ゆることが出来ず又唯水湿に耐へる力は強い様であるが此点だけならば寧ろ赤松の方が利益である赤松は器具建築土木工等の用材は勿論薪材としても火力強く其材質も良く用途も廣い。

以上列挙した得失を綜合して見れば現今我國の林業は今の處では所謂造林事業の過渡時代とも云ふべき時であるから多額の造林費を支出して所謂範模的の造林をなす杯と云ふことは個人では到底出来ぬことである事(一)植付後速かに鬱閉して格別に不利な手入等を爲す必要なり、(二)成長が速かであつて早く立派な森林となり、(三)樹幹立派で外見の美事な樹種を撰んで簡単に造林することの出来ることが大切である、夫れ故此点より云へば民有原野に造林を爲さしむる一時の方便としては至極適當な樹種であること考へる然し其植付の疎密度に注意し且つ成長するに伴ひ適度の間伐を行ふて適度の鬱閉を保たす様にし且つ一定の年度に於ては其林下に適當の陰樹を植付けて混交林とするか又は中林として取扱ふ様にし後日落葉松を伐採した跡地には他の適當な有盛なる樹種を造林する様にすることが宜しかるかと考へる。

人造絹糸業

小松吉次郎

人造絹糸業は人工によりて天然絹糸と同一なるものを一層廉價に製出するを理想とするが故に我國の如き蠶糸を以て輸出最重品となす國にありては其盛衰に常に注目し調査怠るべからず而して人造絹糸業の盛なるは合衆國獨逸埃國等にして之が主なる消費國は露佛にして其他各生産國も亦人造絹糸を消費すること明かなり然れども人造絹糸業は技術上の困難一通ならず度々の失敗を重ねて近時漸く其緒につきしものなれば政府の大なる保護を得て成立するものなり即ち輸入税を比較するに

露西亞	百基ニ付	約六百五十圓(日貨)
佛蘭西	全上	全三百八十八圓
米國	全上	全貳百圓
獨逸	全上	全拾五圓
年産	天然蠶糸産額	人造絹糸産額
一九四	二〇,五〇〇(千基)	一,四〇〇(千基)
一九五	一八,八〇〇(全)	二,〇〇〇(全)
一九六	二〇,九三〇(全)	二,四〇〇(全)
一九七	三〇,〇〇〇(全)	三,〇〇〇(全)
一九八	四〇,〇〇〇(全)	四,〇〇〇(全)
一九九	五〇,〇〇〇(全)	五,〇〇〇(全)

表によれば世界人造絹糸業は年と共に隆盛に趣かんとせり然るに天然蠶糸生産額は其割合に増加せざるを以て勁敵に乘せらるる感あり聽く所によれば人造絹糸製造國際的「トラスト」を組織して大に發展せんと試み佛國の或製造家の間には或協約成立して益加盟を得つゝありと

蠶糸を以て立國とせる我國特に信州人は今後人造絹糸業の發展に注意せざるべからず我邦にも二會社ありて此が製造に従事するものなり木材の豊富なる我邦の如きは林産物利用上斯業の發達を切望して止まざるなり

故郷の森林状態

柳澤義雄

我國殊に信州に住めるものは朝夕山嶽を望み吾人生活に淺からざる關係を有す殊に山間の僻地たる我高遠に於て然りとす東に日藏山西は駒ヶ岳山脈連互して木曾谷と割せり北は立科山八ヶ岳に至り僅に入野屋街道は諏訪に通じ西伊那郡に出する街道であるのみされば他の地方に比して山岳多きを以て昔時は鬱蒼たる森林の存在せしこと明かなれど人口の増加と木材の價値とは共に漸次濫伐の結果を來し天然林の伐木は日に進歩すれども人工植樹或森林保護撫育等の實行少しも行われざりしかば現今は森林の見るべきものなく僅に近年行はれたる學林のみ古の跡を呈せり、而して交通の極めて不便なる山谷未だ伐採の及ばざる所には松類落葉松栗樅等多く存在し花柏杉の如き貴重林木は至て少しとす

抑も山間の住民は主として山林に其生業を求むべきものなりされば農地少く商業の盛

佐渡の森林

羽豆生

佐渡は日本海中の一孤島にして面積は西筑摩郡より稍大なり人口凡十萬余あり然れども森林の状態は木曾の如く美ならず概ね荒廢して洪水の慘害も亦少からず願るに本嶋の森林も亦慶長年間迄は伐木を禁し保護に勉めしかば林相の見るべき所多かりしが慶長より降て明治に至る間森林の伐木を許可し利用の法を講じたれども未だ海岸樞要の地には官吏を置きて他國への輸出を嚴禁せしを以て國內の需用のみなれば山野の荒廢は少く木材も豊富なりしなり然るに明治初年林政一變し伐木は自由な濫伐荒廢觀ることなく他國への輸出も盛に行はれしかば林相は愈破壞せられ加ふる年と共に伐木は増加して今日の状態に陥れり、本嶋の地勢を見るに大佐渡國中及小佐渡の三部に分れ地

質上太古は僅に小面積の二個の小嶋なりき即ち大佐嶋の海府村鷲崎附近の小丘と小佐渡の赤泊村庭端の「アヘタ」山は其痕跡なりとす其後火山噴火の盛なりしかば小佐渡大佐渡の小嶋は漸次陸地を擴大し更に幾多の星霜と變化を經第三期に至り金北火山噴火の結果兩嶋は連絡し所謂國中の大平原を形成せり現今森林の狀を見るに大佐渡は面積最大にして多くは共有林に屬し村民の新炭材を供給する潤葉樹のみならず中栗樹多く良材と樹實とを産す大陸に面する方には羅漢柏、扁柏、杉等の針葉樹を産し檜の良材を出す大佐渡は全面積の六パーセントは目下造林をなし稍々面目を改めんとせり次に國中は本島中最新の地層にして平野なれば農耕の業開け林地は殆ど百分の一に止れり南海岸には順徳帝の戀の浦越の松原雪の高濱等史上に顯はれたる勝地は主として黒松の林となり其他杉羅漢柏竹は本嶋の主林木とす

拔萃

林業年中行事 十月之部 一、推置秋子を容るべき紙袋及其外裝用の菰又は箱を作るべし 二、東北地方に於ては雪中運材用として必要なる橋を作るべし 三、暖地の苗圃に於ては尙除草をなすを

要す 二、寒氣強き所にありては苗木に霜除をなすべし 三、寒地にありては本月上旬より暖地にありては本月下旬即ち秋土用入後より十一月中旬に亘り杉扁柏の穂實稍々淡黄色を帯び將に開口せんとするを待ち之を採收し其種實を精選したる上能く乾燥して布袋に入れ空氣の流通良き所に貯へ置くべし 四、各種の種實成熟するを待ち採收すべし但樟其他の種子にして地上に落下するを待ち採收すべきものにありては豫め母樹の下を刈り拂ひ掃除し置くを要す 五、椋類椎類椋類栗類クルミイヌマキツバキホノキ等大粒の種實を取播するが又は之を土中に貯藏すべし而して栗椋類等の種實には象鼻蟲の寄生するもの多きを以て貯藏に先立ち栗は約十日間糶及糶は約二週間浸水するを要す但浸水中は腐敗を防ぐ爲時々水を新たにすべし 六、霜柱の甚しからざる地方に於ては落葉松、樺、杉、扁柏、栗、樟、椋、椋、椋、椋の床換をなす

造林

一、中旬頃より秋植の好季節なり 二、寒地にては樹液流動の休止するを俟ち枝打を始むべし 三、間伐及掃除伐を始むべし尾鷲地方に於ては杉扁柏の間伐材にして其樹皮を利用すべき見込なきものは本日より始め翌年一月末に終ると雖其樹皮を利用し得べきものは夏季土用中に行ふを常例とし信州地方に於ては本日より春季の新芽發生期迄を落葉松材の間伐季節

とせり 四、明春に於ける植栽豫定地の測量をなし地拵に着手すべし 一、寒地に於ける防火線の新設及掃除に着手すべし 二、杉扁柏の造林地に於ては鹿の交尾期に際し往々角を以て剝皮せられ害を被むることあり 三、松毛蟲の多く發生したる森林に於ては所々に落葉苔藓等を集め其潜伏所を設くべし 四、松の黄蜂の幼蟲本月下旬に至り土中に入り結繭して蛹となり越冬す 五、椋毛蟲は本月上旬より中旬頃迄に蛾となりて産卵す此蛾は其翅強して能く燈光に群集するが故に之を誘殺すべし 六、樟の葉蝨を驅除すると同時に其葉を利用せんと欲せば本月份以後冬季中を可とす

利用

一、用材の冬季伐採を始むべし秋田青森に於ては本日より翌年一月迄多くは雪中に伐採をなし此季節に於ては剝皮し難きを以て皮付の儘造材し小各筋迄糶出しを行ひ春季蠅雪の際出水を利用して川流しをなす又低肥地方に於ては右と同期間辨甲材の伐採をなす 二、吉野及尾鷲地方に於て夏の土用中若くは土用明け後に於て伐採したる木材は秋の土用中又は土用明け後に至りしが造材に著手し椋丸製造の如きは引續き翌年二月頃及ふ 三、本日より翌年一月中旬迄を竹林採伐の最良季節となし満四年以上の古竹を採伐するを法とす若し三年を経ざる竹を伐る時は必ず竹林の勢を損し又七八

一年以上も伐採せずして放置するときには遂に花實を結ひて其竹必ず枯る且又其切株は鈍或は手斧を用ひて能く細碎し之をして可成早く腐朽せしむるを要す然らざれば筍の産出を減し林相の荒敗を招くを以てなり 四、薪炭材の伐採を始むべし佐倉地方に於て標炭材の伐採季節は秋季樹液流動の終より翌春流動の始まる迄の間にて伐採後直に製炭するときには製炭量を減し炭質不良なるを以て雨露に曝されざる様小屋内に十五日乃至三十日間積み置き乾燥の爲其切口少しく小龜裂を生し薄茶色を帯ひたる頃取出して焼くものとせり 五、推置秋子を採收し之を乾燥すべし 六、推置原木に適するものはシデ、ソロ、樺、檜、松、推、栗、檜等にして就中前記五種の伐採最良季は樹液の將に流動を休止し終らんとする際即ち葉は固有の綠色を變し其半數黄色を呈するの時にして本月中旬より十一月初旬即ち秋の土用前後なりとす而して伐採の季節は普通標を標準としシデ及ソロは之れより早きこと一週若は十二三日間となす 七、春季行ふべき主伐及間伐の實査をなすべし 八、栗の實を採收して勝栗又は乾栗を製し其他食用として胡桃、榎、榎、推、マ、タバシ、ヤマナシ、ハシバミ、公孫樹、朝鮮松等の種實を採收すべし 九、本日より翌春三月頃迄を樟腦製造の好季節となす 十、上旬より下旬まで漆の浦播をなし下旬より十一月中旬まで留搔をなす 十一、松茸其他の蕈類を採收すべし

十二、滋賀縣に於ては香茸の採取期を本月初旬より二十日頃迄とし採取の時刻は午後一時より四時までを可とし其以前にありては水分を含有すること多きを以て乾燥上害ありとす 十三、下旬に於て再び蜜蜂の巢を切るべし但其年の氣候により蜜量少きときは之を見合はすべし 一、緒言 現全世界の造船事業界に於て必要欲くべからざる材料の一として認められつゝある「チーキ」材は南部亞細亞洲に位する暹羅、緬甸、印度、支那及瓜哇等の諸國より産出し瓜哇の南方及北緯二十三度以北には曾て生長せるを聞かず瓜哇産は年々多少の増出を見且其材質緻密にして重量多き点に於て斯界の賞讃を博し居るも惜むらくは供給不足にして其太さ又充分ならず之を緬甸及暹羅産の品質優良にして偉大なるに比すれば及ばざる事遠し印度に於ては英國の版圖に歸せし當時は孟買州の西岸より「マラバール」高原一帯に亘り交趾及「トラバンコール」の傾斜地は何れも鬱蒼たる「チーキ」林を見ざるはなかりしが既に委く伐採せられ亦昔日の觀を呈せず今や本樹は殆んど緬甸及暹羅の專有に歸し其産出の消長は全然世界の市價を左右するに至れり 「チーキ」材の産出は緬甸最も多し且買場上古き緣故を有せり、統計表の示す所に依れ

ば千八百九十五年より千九百四年に至る迄毎歲平均十八萬二千噸の輸出をなし之を同年間暹羅の輸出高五萬に比すれば三倍以上に達せり然れども近年に至りては暹羅の輸出高は長足の進歩を爲し且其緬甸との境界に接して成育せん本樹は盡く「サルグイン」河を利用して「ムールメン」に輸送せられ同地製材所に於て加工の上緬甸製材の名を以て市場に現はる緬甸山林局の報告に依れば暹羅産にして年々「ムールメン」に輸送せらる「チーキ」材の數量は千八百九十四年より千九百〇四年に至り平均約十二萬本に達し近年は著しく減少したるも尙二萬本を超ゆると云ふ 抑も當國産「チーキ」が歐州市場に知れ渡りたるは十九世紀半にして當時既に英國人に推知せしが如し其後十九世紀後半中歐州造船界の進歩發達は著しく本樹の需要を増し最近十年間は毎年平均一千萬餘内外の輸出をなし就中暹羅曆百二十四年度(自千九百零五年四月至千九百零六年三月)の如きは其輸出價格一千四百萬鎊に及べり當國の如き一般産業の程度甚だ幼稚にして何等特筆すべき興業なき土地に於て年々七千萬鎊の輸入に對し尙一千万乃至二千萬鎊の輸出超過を示し外國貿易の平衡を保ちつゝあるものは畢竟するに此「チーキ」材と他に一の最重要輸出品たる米穀のあるが故に外ならず而して將來世界に於ける造船技術上大革命の起らざる限り又他に「チーキ」に代るべき適當なる造船用材の發見せられざる限り「チーキ」は市場に於て其需要を減するが如きことあらざるべし 二、「チーキ」材の産地 當國に於ける「チーキ」材の産出地は主として北方「ラオ」地方に位する「モンテンパヤ

暹國產チーキ材に關する報告

ツブ、チコンソワン、及びサノロークの三州内にして乃ち北緯十六度より二十度に誇り西は英領緬甸國東部を南北に縦貫して「ムールメン」港に流出する「サルウイン」河を控へ東は濱江河を境とし而して中間に濱南河の水源を抱括する一帯の地域内なりとす然るに此「サルウイン」河附近の「チキ」材は緒言に述べたる如く運搬の便宜上同河を利用し「ムールメン」港に出で緬甸「チキ」の名稱を以て市場に現るゝが故に當盤谷に來るものは其他の地方乃ち「ラオ」の中央部に於て濱南河の上流たる「メーピン」河及「メーヨム」河并に其又原泉たる「メワング」「メ、ナン」兩河の區域内よりのもふみとす而して是等地方に於ける「チキ」材の主なる集散地は「チエングマイ」「ナイン」「プレー」「ランバン」及「ランブーン」の五市なりとす就中「チエングマイ」は盤谷市を去る北方五百哩の都市にして五十年前より既に「チキ」材の集散地として其名高く今や人口三万余を有し諸種の官衙公共機關を備へ又斯業に關係を有する歐米人の在留するもの多く英佛兩國の如き夙に領事館を設け領事を駐在せしむ尤も前述の地域より一層北進するに於ては極めて良好なる「チキ」材ありと雖も何分現今唯一の運搬法たる水運の便なきを以て遺憾ながら之を如何ともするを得ざる有様なり又濱南河の西岸暹羅領内にも「チキ」の良材多きも同河上流は此種物資の運搬に適せざるを以て未だ今日迄西貢方面より「チキ」材の輸出せられしを聞かざるなり

し幹は直立し居れり一ヶ年の平均雨量五十吋以下なる乾燥地に適するものなり而して普通「チキ」材と稱するも決して全山悉く同樹たるが如きものにあらずして他の自然發生植物と混合繁茂し居るものにして唯一「チキ」樹は幅八吋乃至十五吋長さ十乃至二十吋の葉を有し花は白色の圓錐花にして恰も我桐葉桐花に類似せるが故に一見忽ち他植物と區別を爲し得べし

「チキ」材の主なる價値は木質の硬さと其細胞纖維に粘着しある脂液とに外ならず此脂液たるや水に對する抵抗力頗る強く殊に金屬類の木材と接觸するの際に普通生ずる錆及腐蝕を防ぎ木材の保存上大に力あり之れを以て船材として欠くべからざるは勿論尚熱帯地方に於て平素屢々害を加ふる白蟻の攻撃に堪ゆるを以て建築用材として亦最も必要のものとして算せらるゝなり

四、伐採及運搬方法

採伐すべき「チキ」の選擇終れば先づ地上に接して鋸を幹に加へ輪狀に挽き廻し其樹の能く枯死するに足る迄内部に斬込み少くも二年間は其儘に存立せしむ後好節を待ち挽き出し枝を拂ひ適當の長さに斬り丸材となす重に乾燥期中に於て行はる而して例年六七月雨期に入り山間の溪流漸く水を通ずるに至るや之れを利用して附近の河流迄運出せらるゝものにして溪流の利用なき地方にありては専ら象の力を用ひ又盛暑の候象を使役し能はざる時は水牛用二輪車を使用する事あり永く斯業に従事する「ボルネオ」會社及「ビルマ」貿易會社等にありて各種の器械を應用し峻険に於て象を用ひ難き場合には鉄索運搬方法を試みつゝありと云ふ斯くて河流に運出せし「チキ」材は再び「メーピン」河或は「メーヨム」「メーワング」

乃ち平均一ヶ年の産額は九三、七〇〇本也とす茲に注意すべきは一八九八年より一九〇二年に至る前五年の平均数は七〇四五本なるに一九〇三年より一九〇七年に至る後五年間の平均数は一、一六、九七七本にして約六割六分の増加を示せしを見れば近時一部人士間に於て暹羅「チキ」の産出年々減少しつつありと稱せらるゝも或は一の杞憂に過ぎざらんか然とも兎に角其品質の漸次低落し來りつつあるは争ふべからざる

五、一ヶ年の産出額

一八九八年	五〇、八〇〇本
一八九九年	五三、〇〇〇
一九〇〇年	二〇、〇〇〇
一九〇一年	六四、一七〇
一九〇二年	六四、三二五
一九〇三年	一〇八、五三〇
一九〇四年	一三五、一四〇
一九〇五年	一四六、七五三
一九〇六年	八六、〇六六
一九〇七年	一〇八、三九八

事實にして往年は捨てゝ顧みざりし劣等「チキ」材も近來當市場に於て相當の價値を有するに至りしは一は需要の増進なりと雖も亦上等「チキ」材の減少せしに外ならず

六、盤谷市に於ける製材場

北方より當市に川下せし「チキ」材は製材所に送らるゝ者多し現今當市に於ける製材所は其數約九ヶ所あり多くは西洋人の經營なれ雖亦支那人暹羅人の所有に係るものなきにあらず、悉く瀾南河の西岸に散在し「チキ」材は製材所の前岸に繋留せらるゝ其下り來ること多き際の如きは製材所前幾十百の丸材列をなして浮漂し頗る盛觀を極む又大なる製材所は特に繋船棧橋を有し其製品の輸出船積の便に供ふ而して是等製材所に於ては英國製最新式の機械を使用し動力は蒸氣力を用ひ西洋技師監督のもとに多支那人の勞力を備ひ居れり斯くして此所に於て板材角材其他の用途に應じて製材したる木材は始めて海外に向つて輸出せらるゝものなり

七、輸出額及輸出先

「チキ」材の米穀と相待つて當國輸出品中の重要なものにして其名著しきものとす蓋し例年當國輸出品物額の七割七分は米穀同一割三分は「チキ」にして残り一割を僅かに各種物品に依り充す状態なり又之が重なる輸出先は左の如し

印度、香港、英國、佛國、新嘉坡、獨逸國、伊國、日本、古倫母等のなり

八、山林行政沿革一斑

千八百九十六年以前に在りては瀾南河及「サルウイン」河の上流に至る所野蠻たる「チキ」林を見ざるはなく當時僅かに伐採木の太さに制限を加へん外何等の取締なく全伐採者の取捨に放任せられたる有様なり

りしかば當に濫伐の弊に陥りたるのみならず往々當該地方官と結託して公然盜伐を擅にするものあり斯かる状態のまゝ數年を経過せば遺國「チキ」は殆んど全滅に歸すべかりしも政府茲に見る所あり多年印度にありて營林事務に執掌せし英人スレイト氏を聘し同氏の意見に依り千八百九十六年内務省内に山林局を創設し尙は斯業に造詣深き人士を印度及緬甸より招致し且有望なる暹國青年を撰擇して之れを養成するの方針を採り又森林保護法及管理規則等を制定し時々局員を派出して貸付林の測量調査に従事せしめ併せて貸付條件の履行を監視せしめ更に進みて有意なる青年を印度デラダン山林學校に特派して斯業を研究せしむる等鏡意斯業の改良發展を計り山林經營の基礎を是稍整備せるを見る千八百九十七年貸付規則を改正し林業の發展と適當なる拘束を加へ貸付年限を六年と定め周圍七十六吋半以下の樹木を伐採する事を禁止せり越へて千九百一年に至り舊來の貸付林は概ね満期に達したるを以て實査の上尙探伐し得べき樹木の存する山林に限り貸付規則に準據し之れが繼續を許可せり而して林税は從來丸材一本に付四留比二十五仙なりして其大小に依りて區分し大は一本に付拾留比小は六留比となせり

千九百七年に至り曩に六年契約の下に貸付を繼續せる山林は何れも満期に達せり於是更に改正規則を公布し千九百九年十二月一日より之れを實施せり其大要は(一)貸付年限を十五年とし(二)借受人間の便宜に依り相互に租借山林の交換を爲す事を許客し又場合により閉鎖林を開き可成諸所に散在せる小借區を纏めて數ヶの大借區と爲し以て整理し便ならしめ(三)大借區は之れを二分し其一半を採伐區域と爲し向後十五年

間は専ら此區域内に在りて採伐に従事し他の一半は豫備林と爲し其後十五年間の採伐區域に先用し(四)林税は丸材一本に付十二銖と定む等重なるものにして此改正規則の履行せらるゝに至らば當に伐採上幾多の便宜を得るのみならず之れが費用を減し供給亦豊富となり斯業の根柢を強固ならしめ暹國「チキ」の産出を永遠に保証し得べし尤も此改正は遠く前途の發展を慮り伐採上種々の拘束を加へたる爲め今後十五年間に於ける産出高は之を既往の五年間に比すれば其平均に於て或は多少減退すべしと雖も次回十五ヶ年後に至らば其産出額は非常に増加すべしとは當業者の均しく期待する所なりと云ふ

盆踊につきて

松 軒 生

木曾の盆踊は比年盛行の傾を生じ鐵道開通以後遠來好奇の客の之を珍とし之を喜むの結果更に地方人を挑發し今や盆踊は木曾好箇の特徴として滿天下に紹介せられつつあり此時に當りて聊か之が社會風俗上に及ぼす利弊を述ぶるも強ち無用の事にあらざるべし願みれば我郷里の如きは我幼年時代即明治廿四五年頃迄は頗る盛行を極め地の所謂若い衆にして踊らざるもの殆どなく或はサ、ヲを鳴らし或は蓑笠を被り狂唱亂舞二三夜を徹せしを今尙記憶す其後盆踊は地方の風俗を紊亂壞敗するの恐ありとて其筋より嚴重なる制裁を加へられたればさしも盛を極めし盆踊も全く其聲を絶ちて僅かに山間僻邑にのみ其名残を留め一般の農村は一時寂寥の感に堪へざりし思ふに何れの地方も亦此の如くならん盆踊は既に禁止せられりして之に代るべき娛樂は一も與へられざりしか此の如くして盆踊禁止が地方風俗上幾

何の良結果を齎せしやは我輩之を知らず
夫れ人固より木石に非ず二年三百六十日豈
黙々として勤勞するに堪へんや大に勉め大
に遊女の主義は人心をして倦まざらしめ進
て向上の一路を通るに極めて肝要の方法に
あらずや

山村僻邑終歲絲竹の聲を聞かず目に綾羅の
色を見ず日出ては耕し日入つては慰ふ其
間彼等が樂みとする所のものは何ぞ自然の
美景にあらずんば則隣里の噂話のみ而も是
等も馴れて面白からず又慰安とするには
餘りに單調なりかゝる境涯にありて彼等の
且其憧憬して止まざるは實に鎮守の祭なり
收獲祝なり盆踊なり此時彼等は或は土俵を
築きて一日の素人相撲に我を忘れて喝采し
或は掘立小屋を作りて一夕の田舎芝居に百
日の勞を忘れんとす若し夫れ盆に至りては
新調の浴衣一枚袂を月下の繭し一團數十百
人踊り踊りて天明に達するを知らず一年農
村の娛樂は此の如きのみ今即ち此娛樂中の
娛樂を奪取せらる農村少年の失望落膽果し
て幾何ぞ

世の盆踊を呪ふの士よ請ふ試に盆踊を仔細
に觀察せよ彼等男女が手舞ひ足踊り調聲全
く整ひ進退悉く節に合一團恰も一人の如
くなるの時に當りては魂融け神和ぎ身は己
に浮世を離れて遠く天上に歌神と遊べるを
彷彿すべし此時や一片の邪心なく一毫の汚
濁もなし而して舞踊者は不知不識の間其美
的情操を涵養し其心意を洞開暢達する事を
得て平生不平の事は忽然拂拭掃蕩せられ又
痕跡を留めざるに至らんとす之れ實に歌神
徳なり此の如き樂は盆踊を外にして何れに
求めんとするか

近時漸く農村の娛樂として盆踊の再興を稱
説するものあり京都府某郡の如き近年其禁
を解くに至れりや聞く人生宜しく寂莫なる
べからず農村の青年に向て一年數日の安息
日を與へよ而して彼等をして放し歌はしめ
よ舞はしめよ斯くして彼等は人生に多大の
興味を感じ更に勇氣を鼓舞して愉快に己が
職業に従事する事を得ん也

さて盆踊は古の歌垣の遺風なる事人の知る
所なり歌がきは歌かどひの約にしてかどひ
はかかひの約也互に歌をよみかけて争ふ
意なり書記には歌場と書し常陸風土記萬葉
には權歌とあり皆歌垣の事也攝津國風土記
には雄伴郡に歌垣山あり男女此山に集ひ登
りて常に歌垣をなすと見え萬葉には筑波山
上權歌の歌を載せたりされば地方にありて
は多く山上にて行はれしものなるべし然る
に都方即大和國にては市にて爲せると見え
たり

し續記十一に天平六年二月癸巳朔天皇(聖
武)朱雀門に御して歌垣を御覽す男女二百
四十餘人五品以上風流ある者皆交雜す其中
云々等を頭となし本末を以て唱和す難波曲
、淺茅原曲、廣瀬曲、八雲刺曲、を爲す都
中の士女をして縱觀せしめ歌を極めて罷ひ
とあり又同書三十に寶龜元年三月庚申車駕
由義宮に行幸す辛卯葛井、船津、文、武、
生、藏六氏の男女二百三十人歌垣を供へ奉
る其服皆青摺の細布の衣を著、紅の長紐を
垂る男女並び行を分ち徐に進て歌て曰く
ををめらに男立ちひふみならす西の都は
萬代の宮(西の都とは由義の宮をいふ河
内の弓削也)

其歌垣の歌に曰く
ふちも瀬も清くさやけし博多川千年をま
ちてすめる河かも

毎歌曲折して袂を擧ぐるを節となす云々五
位以上の内舍人及女孺に詔して其歌垣中に
列らしむとあり是等によれば只両方に相對
して唱和するのみなり歌垣の天覽に供せら
れ又朝臣さへ立交りて歌ひしを見れば如何
に優美にして趣ありしかは想察するに難か
らず盆踊の前身が一度はかゝる光榮を有せ
しを思へば今日之を修正し改善し相等の品
位を持せしめ農村の一娛樂となすの餘地な
からんや

故山に歸るの記

親しき友と暫しの名残りを惜み、こゝ東縛
といふ嚴門を出て、遙か懐しき故國の行
旅に上るべく、久し振の自由の野に歸つた
のは二十八日の夜八時。

満天には既に星の煌き冷かに、風塵の町は
大なる不夜城かと思はれた。

滔々たる木曾川の清流に、紅燈の影麗はし

い大手橋で見送りのS君N君に別れ、後は
同行のM君N君の四人連れ、本町通りを
逍遙ついで、水呼ぶ聲に涼を納れ清水町か
ら八澤町と、いつか車帖通りの寂しき街燈
の下を過ぎて、明るい待合室のベンチに腰
を下ろした。

折柄、皎々と眞晝を欺く構内には人つ子ひ
どりも居らぬので、此れ囂強と早速〇等へ
侵入して備付の新聞などを失敬したが、
寝るも可、騒ぐも可なり、此處暫時は僕等
の天下だ。

少頃の後、讀書に倦んだ眼を戸外の景に移
したが、其も頓てあき退屈凌ぎに快き一睡
を貪ろうとするのであるが、西窓より襲ふ
夜風が身に沁むので殆んど睡か交らない兎
角する内に飛ぶが如き車の軋り、登音がし
て追々人が集つて来る、て大分騒々しくな
つた。時計はと見れば九時過ぎ、が發車まで
には未だ三時間とは、あゝと歎するも又術
なしだ待たるとも待つ身となる勿れとは、
宜なり、良なり、時間の正確な(と言はひ
聊か偽かも知れぬが)汽車でさへ(此思ひ
況や時間などの眼中にない人間に於てをや
だ。

れぬよと失望の聲、二君はと見れば、驚い
たり、呆れたり、もうグッ／＼と前後不覺
其下手な大の字なりから見れば、三尺の童
子に髪首を刺されても亦いかに防がんとや
よし、茲に一つ破天荒の悪戯をと思つた
が、折角快く眠つてゐるものを、大層な同
情心を出して、一先づ宥して置いた。其内
いつの間にか僕もうつとどろりしてしまつた
ガタ／＼と入り亂れる足音にハッと思ふと
瀧車が出るといふハッと思ふとハッと思ふと
手早く切符を求め、チッキを頼んで後れ馳
せに飛込んだが先づ心が落ち付いた。

かくて十一時四十五分最終の瀧車は一聲高
く天空に鳴り渡つたが之が暫くの見收めか
と、窓から覗く鼻先に福島市街の夜光が淋
しう我等を見送るものゝ如く、つい先程別
れを惜しんだ、寄宿寮はもう暗くなつてゐ
た。

相乗客は凡て二十人位で、左程狭くも感じ
ない。

宮ノ越、洗馬と、驛名を幻に聞いていつか
車中に夢路を辿る。

「明科」と呼ぶ聲で、ふと我に歸ると未だ三
時、外は薄闇である。窓から頭をツン出
て空の雲行を見てると、突如瀧車からオイ
〇〇と呼ぶ者がある、驚いて見ると晝立つ
たT君、思ひ掛けなくも又嬉しかつた。

程なく、中央線に名も高き〇〇冠着の二大
隧道を抜け出れば、眞霧地に急勾配を走
り下るので、颯々として兩側の窓より涼風が起
る。愉快と叫べば忽ち眼界は開けて、所謂
善光寺平の緑野は今や眼前に現れて来た。
と見る、東方遠山の藍色に、オレンジ色の
紅雲美はしく映れて、犀、千曲の流れは緩う
夏晩の寂靜なる所へも言はず、心神清爽
身は仙境に入るの心持であつた。

かくの如くにして、車中に二十九日を迎へ

たが、三君は嬉捨にて下車し續いて篠ノ井
にてT君に別れたので、残るは我身一つの
天下浪人よろしく、長野に着したのが午前
五時〇五分。降りて次の列車(下り)を待つ
べく休憩したが、全じつ越路行であらう、
二三の學生も見えて御全様退屈うな顔付
こゝに思ひ待つ事一時間余、即ち六時十五
分、勇ましく瀧車を後に、思ひ出で多き越
ノ國へと向つた。

信越の國境に差しかれば、左右の山林、
溪流のささやき、さては茅屋の散見、皆昔
の儘なる坐ろ感に堪へざるものがある。

瀧車は新井邊から速力をます、やがて日本
アルプスの影も戸隠しに、森茫たる日本海
に沿うて或は松林の間或は隧道の中を飛ぶ
が如く、いつか一望千里の越後平原を横斷
するのであつた。

途中、某々の驛では見覺わある賣子を見て
深く思ふ所あつたが、彼はろんな追懐の的
となつた事などは夢にも知らぬのだから可
笑しい。下越の龜田邊からは一杯の乗込み
で電車ならば赤い札の下る所だご蓋し皆新
車の有難さ(僕等には迷惑だけ)蓋し皆新
湯の川開き見物とは知られた。さなきだに
暑苦しい車内は、まるで熱病にでもなりう
う新湯に着いてホッとしたのは午後二時四
十三分である。

直ちに車を命じて、日本第一の高代橋長サ
四百三十間を打渡り、寺裏通りなる五方へ
と駆け付けた時に、氏は未だ不在なので、
獨り出で、學校町に物産陳列館を參觀し白
山公園にと歩を向けたが、折柄(信濃川)對
岸より打揚ぐる轟砲の音は絶え間なく我胸
を躍らすのである。

夜になつた。花火見るべくH及M二氏に誘
はれて出掛ける、目的の大川前通りに出る
までには幾度か橋を渡つた、併し奇麗な河

(水)とては一つもなかつた。獨り岸の柳は其醜を蔽ふべく、媚を呈するのであるが如何せん、本元の信濃川が濁流だ。さらば此川の水を木曾川の水に較べんか、うれしき雪と墨との差である。

あゝ其濁々たる色、見るさへ不愉快千萬な然も年々の水害は下流地方の沃野を荒らすのではないが、日々の濁流は河口否港口をして漸次淺からしめ空しく新濁をして五港の名を昔語りに残さんとするのではないが、して見れば此厄介物即ち珍無類の悪党か、して越後の一部分に害を加ふるのみならず、引いては縣の損害となり、國家の損失ともなるのである。

然らば其罪惡をなさしむる原因はと尋ねたら、何しても水源地たる信濃は、其責を受けねばなるまい。山林國と感振らんには須く其水源地の殖林を完らし、信濃川の水をして清淨ならしめ、以て越後の永遠の怨みを解く事が肝要であらう、既に着手してはかばか知らぬが、即ち隣國に對する義となる且又之を大にして言は、實に國家に忠を致す所以であるのだ。

こんな事を考へながら、雜踏地に入つた。女相模の前には、大勢の立ん坊が幕の上のをまつて覗く。大蛇の見世物では色の淺黒い四十女が、頻りと辯じ立てる。

上の方で、某氏の好意に設けられた席へ陣をさる。一發又一發、川向ひの萬代橋の兩袖から、相競ふて打揚がる。聞けば優等者には賞品が下るうな。

フンと揚つて、パツと散る、青赤の光は壯觀といはうか、美觀といはうか、あつと叫ばしむるのも少くないが、惜しい哉風があるで始めは幾分躊躇した爲、豫定通りはやれぬうだ、いづれ三日間も打續くだらう十一時頃、一先づ歸る事になつたが、本物

は十二時頃でなければならぬうだ、見ないから誰か宿へ。(未完)

隣の自ら任じた天文家與作爺今年は照入梅だなどと氣焔をいしたが爺の天文とは大違の降入梅なので爺此頃小さくなつて氣焔所では無い

所が昨日と變て今日は朝から上天氣又其暑さは格別で路行く又も俄にバナマ白地と變つて居る

向の街道を手拭の浴衣を着た水屋水々と呼んで行く氣早な小供は水浴に友を誘ふて居る

遇ふ人毎に「暑くなりました」と云ふ聲が自分の暑い苦しいたまらぬと思ふて居ると突然ゴロゴロと鳴り出す雷の音

ふと見ると黒雲がもう守屋山のあたりにもクムクムと湧き立つて見る、中に薄暗くなつて来た電光キラリぶつたたくような雷鳴

二ツ三ツ

涼しい一陣の風が颯と吹いたと見る中に大粒の雨が桑の葉にポツリ耳ををさへた佐次郎がまた半町と逃げ延びぬ中に鳴る光る降る吹く世の終りかと思ふ程の荒れよう、と思へば忽ちすつかり明るくなつて来て太陽がさす。

止んだなど思ふて出て見る頃はもう隣へ通り越して籬ごしになつて居る

東の方はまだまつくら雷様がゴロンと太鼓をたいて居るが西の方は赤々と夕日がさして柴宮の下かと思ふ邊りから湖水の方へかけてすばらしい虹が立つ

あゝ涼しい々々々々さつき迄情れて見へた稻が只一時の間に眼もさめる程青々となつて何所を見てもサワ／＼とさざめいては露を揺りこぼして居る。

諏訪之初夏

金佛生

休暇日記

喜多村杜溪

我等學生の尤も愉快に尤も渴望する三旬の暑中休暇は來れり此樂びべく喜ぶべき時を空しく家に蟄居して徒らに食ひ徒らに寝ぬるはこれ天道に反するものなり余は此休暇を利用して八月中旬漂然身を小川の山中に現しぬ此の鳥も通はぬ山奥に於ける活動は左に記せる日記を以て紹介せんとす

八月十九日 快晴

起床五時半岩間漏る水の如き水を以て洗面す山中の朝の景幽邃閑余の如き拙筆の及ぶ所にあらず本日測量器械到着せず徒らに日を過さんも惜しめて陸軍歩兵中尉某及二三の人と小川伐木跡地及川狩の實況を見る經營者が宮内省なる爲め萬事秩序正しく人夫も拙も勢よく働居たりし流石の小川の山奥なれど理想の林ばかり伐木跡地と立木地との境目は見事規則正しく立木は櫛の齒の如く誠に一驚を禁ずること能はず山を下り川狩を見るに其素晴らしき材木に驚口の昔人夫の掛盤深山に響きて異様の感に打たる一句流れ木のたぶりと夏の川と吟じける此處に於て中尉の人と別れて余等二三名は植物採集に赴く、而して益々山を奥へへ進む此邊は駒ヶ嶽と植物の分布は相等しとの事にて高山植物の名も知れぬが其處此處にありかの植物研究家が熱心に採集しつゝある一ツ葉らんと澤山あり三四株採集す又もうせん若も澤山あり虫を捕ふるさま仲々面白くしばしば見られて居たりき小徑をたどりて益々奥へへ進み行く程に幽閑の念禁ずる能はず路傍の風光に至り

ては真に見る物をして恍惚たらしむ或は奇岩に迎へられ薫風を送られ時は斷崖絶壁數千百のの上に架しある幽趣ある橋橋々々岩を叩ひて歌ひ枯木に映打つて吟じなげと盡きす益進みて奇勝を探り度は山々なげと空腹の致方なく歸途に就く歸りて見れば三河國の友人より音信あり早速筆を取りて返書を書き食後今日の疲れにて早々寝に就く

全 二十日 快晴

残月淡々として林端に低く樹間の群鳥頻りに騒ぐ頃暖かき寢床を離れた相變らず冷たき水にて髪顔を洗ひ朝飯を喫した夫より僕はボーゼ測高器を肩に他の測量師二人々夫一人を連れて仕事に向つた先づ測高器を据え付けて灌木生ひ茂れる山麓を押し分け踏み分け進んで行つた僕は其時視標マンを居た漸次選点も進み行くに隨ひ空腹と疲勞とに迫られ十一時半晝飯を喫す晝は僕が測高器を見る役目になつた最初は中々馬毛を中心へ入れる事が出来ず視標を持つて居る人夫を大分弱らした而して段々慣れてイソノターを一本斗り打つた宿舎に歸りしは午後五時半である夕飯は實に美味であつた此夜僕は愉快なる事を耳にした曰く我宿舎の前には柳の小屋がある此處へ今朝十時頃野猪が子供を四匹連れて内に遊んで居たと下狩人夫の實見談であつた余が心は跳つた日頃賑へし此腕必らず彼の頭に御見舞申さうと拳を握り固めて山奥ながら暖かき床に就いた

佛都便り

曾山子

◎余が駒場時代以來耻かしくも常にリポートを怠らざりしが曩の曾山獨語より茲に五ヶ年全く御無沙汰致し候ひしは一は吾が承けたる職責の全からんを期し常に顧慮する所あるに依るべきも又駒場時代の如く専心研究する能はず從て自ら得意する程のニユースを齎さざるに依るものゝ有之候乍併コ

ハ甚しき謬見と存じ候へば亦々駄文を以て御目に懸るべく候、希くは親愛なる諸君東西幾十里千里の相異なる懐かしきライフを開かせ賜はらん

◎余本、兎角西南、深緑あり二月は岐阜愛知兩縣の林業行政視察の命を承け八月再び岐阜市に昆虫取調として赴き爲めに毎年必ず教を仰がんと約なり駒場行はフイとなり候も又得易からざる或るものを修得致したるを信じ候誠に幸と存候

◎舊友を訪ねて往時を語るの快は古きより耳づれの言ひ草に候もさて實際に相遇したるものにあらずは眞價は味はれず又友人の有ガタ味も知れぬものと存候

クラスマートが再び一堂に會せんは余等一生には望み難き所、さりとて年は一年とふへ行く新しき思人先輩知己との文通たになかむつたし思人先輩同志が年誌の一部さへも難かるべく候へばせめて本誌の一部にても借用しデカ／＼に昔なじみの罪なき出鱈目を交せ返へし古きは温むる事の如何に懐かしかるべきかと岐阜なる伊東兄とも約したる事に御座候賛成願度候

◎同じ型に籤められ同し教官に山や齋間を追ひ廻はされた……聞かさへ何事にも庇護し度きを吾等は人情と思ひ居り候況んや二三年も同じ簽に生を托したる關係に於てなや然るに長き職務上の幾多の關係に於てなから任を轉するに方りて一言の挨拶だになが又他課僚にも一枚のハガキさへ出さで免式をきめ込み候様の事ありとせば縁もゆかりもなき人君子にあらざればは先づ母校に一矢を番ふべく宛を校友に被せ幾分にて後進の發展に阻碍を考へんは遺憾の事の御座候此邊は御互に注意致し度候

◎余が本縣林務課に職を奉じてより茲に五年其間常に植樹奨励の業務に従事し居候之れは余が母校を去りて以來茲に八年殆ど繼續的に服し來る所に候へば迂は迂なりに聊か得意の業に有之候然るに近年に至り年一

年に困難其度を加へ細心愈々細心を要し又該博にも該博を要する如く察せられ今や自ら其器にあらざるを悟り候乍併余の茲に達を得ざるは恩師本多博士が常に苗圃事業の困難(時代の變遷や氣象上の激變非常なる病虫害は別として)を説かれしを只僅に記憶に留めたりしを今に及びて痛切に感ずるに至りたる事に有之候

茲に腹わたを披きて御指導を仰ぎ候

本縣々設苗圃は南北三十余里に亘り十ヶ所五十一町余歩年々の播種量は六十石乃至九十石樹種は扁柏杉赤松栗櫟等十數種余が理想は少くも年々小苗(山行一年前)とし一千二百萬を出す豫定なるも年々相異なる幾多の故障により七八百萬本なり

年々豫算は二萬二千圓なれども治水事業の新設保安林調査の進捗及部落有林野統一後の整理等の事情ありて翌年度より擴張の要を認む

◎未だ以て發表するを許さずと雖今や其季節に近き居り候へば共に研究を請はん爲め紹介申すべく候夫は余が二ヶ年に亘る實驗の結果稍望みを置きたる栗櫟等大粒種子の貯藏法に有之候

而して方法たる誠にたわいもなき事にて要

a、鋸屑と種子と等量若くは鋸屑を幾分多く混濁せるもの

b、鋸屑のみ(種子量の四倍乃至八倍)

此の二者を以て適宜の地上にaを餡としbを外衣とせる餡を作るに於てのみ尤も栗の如きは野鼠よりも頭黒鼠の虞あるを以て周囲に柵を設くるの要あり

以上にて總てに候

又此法の土圍に比し劣れるは發芽の早き事にて之れは利害關係の伴ふ事なれば更に考究實驗の上御知らせ可申上候

◎先は第二期初陳として右まで不宜

九月九日久しぶりの雨を聴きて胸なで下しつゝ

尙余は數年來森林植物と親しみ居り候へは山野を跋渉せらるゝ向は勿論散策の序にも又九州沖繩臺灣や北海道樺太北鮮の諸君は手當り次第にても宜しく候へば何分の御惠與待居候

尤も御惠送下さる諸兄には申すまでもなき事ながら採集月日場所採集者地方の呼稱並に特殊の用途あらば夫れをも紙片に認め結び付け願候

長野縣廳林務課高樋博

學校彙報

○第二學期始業式 九月一日午前十時恒例の通り職員生徒一同雨天体操場に集合して本學年度第二學期始業式を舉行せり續いて七月二十五日附を以て本校へ轉任せられし北村先生の新任の挨拶あり十時半終了せり○千葉本縣知事來校 九月十二日午前十一時本縣知事は直井地方課長井上林務課長佐藤縣視學等を隨へて來校一渡り授業を參觀せられ職員を集めて訓辭を與へ十二時郡衙に向て引取らる

觀月會より申上候

今宵七日は仲秋十五夜に相當仕り候へば小丸山に於て盛大なる觀月會を開催仕り候昨年一昨年も是はき雨は我徒をして徒らに仲秋無月の歎に堪へざらしめ申候處今宵は珍らしくも空いと心地よく澄み渡りて觀月には申分なきの夕に有之候。されば今宵こそ重なる鬱懷を晴らさんものと會場を觀月に最も適せる小丸山に撰び申候。藍色の空に星二ツ三ツきらめき初る頃校長

(明治四十四年六月十四日第三種郵便物認可)

先生及各先生を初め一同は會場に集合し千草八千草咲き亂れたる草原の中に圓形を畫きて座を占め候へば委員の開會の辭に次で山爲す御馳走は各自に配布致され御馳走の數々には鮮あり梨あり林檎あり葡萄あり枝豆あり菓あり其他一々數ふるに遙あらず小さき二ツのポケットには收まるべくもあらず候へば或は帽子に入れる者或は草原に据える者又は手巾に包む者など有之候御馳走は先づ鮮を開くもの多く稍空腹を感じたるの折柄其美味は一通や二通には無之候御馳走の美味に酌り込まれて目的のた月様は頓とそつち除けの有様に有之候處墨繪の如き駒ヶ岳連峯の一角今しオレンジ色に輝き將に明月の昇るを申し申候流石の一同も箸の手を忘れて見惚れ居り候へば見る眞圓の月は邊りの雲をこし拂ひ靜かに鮮やかに山を離れ申候。草葉の露は晝を欺く月光を浴びてキラ／＼と光り千草一すだく虫の音も一きわに繁く天地は飽迄清く飽く迄涼しく飽く迄鮮やかに相成候此時瞬間吾等の腦裡には社會もなく人生もなく自己もなく唯月あるのみに有之候。此光景に恍惚たること暫くにして當夜餘興の呼物たる本校名物男の當選結果發表致され候。夫れは未來の總理大臣未來の警察署長未來の金縁眼鏡等十余人にて當選者には一々之に諷したる賞品の授與あり仲々に滑稽に有之候續いて餘興として演説、劍舞、詩吟、新體詩、琵琶歌等有之中にも七宮先生の節面白きアイヌの俗歌と北村先生の勇壯なる南州翁の詩吟とは一入の興を添へ申候。虫聲に和する琵琶歌の聲月光に閃め、劍舞の劔など實に言ふに言はれぬ趣有之候。面白き之餘余興の數々に心奪はれ居候内月は既に中天に高く時針は將に九時に垂んなんと仕り候。興は未だ半だに盡きざれども時間制限あるを如何せん、されば茲に一同我校の高歳を三唱して目出度散會仕り候(鳴水)

通信

○上田銀二君より(八月廿七日書) 署中御見舞追而愚生帝室林野管理局名古屋支廳阿多野出張所に在勤罷在候處今同廳付知出張所へ轉勤致候間御承知相成度先は御伺旁御案内迄敬具

會費領收報告

貳圓川岸滋次郎君。壹圓宛西野入徳君。宮崎二郎君。中島要人君。高柴眞次郎君。原耕民君。八拾錢上原上君。四拾錢林恒君。參拾六錢蜂須賀宮次郎君。原田英次君

會員移動

長野縣 給月俸拾八圓長野縣技手月俸拾五圓給與長野縣林業技手 高樋博 任小縣郡林業技手月俸拾圓給與 杉本 貢 依頼解職 更級郡林業技手 一但馬 廣造 任下高井林業技手月俸拾圓給與 兒野 榮

長野大林區署 任林務技手十一級俸下賜 森林主事 上條 嘉一郎 依頼免本官 森林主事 荒井 喜多雄 岐阜縣 任林業技手月俸拾八圓給與 肥田 幸一 東京大林區署 任林務屬十一級俸下賜 下條 初太郎

石川縣 任林業技手月俸貳拾參圓給與 林務守署手 温井 誠一 鹿兒嶋縣大林區署 九級俸下賜依頼免本官 林務技手 征矢野 克

靜岡縣 任林業技手月俸貳拾壹圓給與 横山 治人 任靜岡縣技手月俸壹圓給與 福嶋縣 任愛媛縣林業技手月俸貳拾壹圓給與 松澤 莊太郎 福嶋縣 任愛媛縣林業技手